

令和5年度 第2回宇和島市発達支援拠点整備検討委員会 会議概要

【開催日時】

令和6年3月1日（金） 18:00～19:00 ※対面で開催

【開催場所】

宇和島市役所 701 会議室

【出席者】

委員 12名（出席：10名 欠席：2名）

事務局 5名

【内容】

報告 施設整備の進捗について

議事 発達支援センターの運営について

- 1) 関係機関との連携
- 2) 令和6年度実施予定の事業

【会議経過】

1 開会

事務局より配布資料確認、協議内容の公開について

進行：委員長

2 報告 施設整備の進捗について

資料に沿い、こども支援施設全体整備スケジュール、開設までのスケジュール等について事務局より説明（説明者：太田課長補佐）

[質疑応答・意見]

特になし

3 議事 発達支援センターの運営について

資料に沿い、発達支援センターの運営の概要（関係機関との連携・令和6年度実施予定の事業）について事務局より説明（説明者：上杉担当係長）

[質疑応答・意見]

委員：保育園、幼稚園も学校からの相談の流れと同様と理解してよろしいか。

事務局：資料P4-スライド4「支援者からの相談の流れ」と同じ。現在就保育園、幼稚園では巡回支援専門員整備事業（通称：おむすび相談）を実施しており希望園が申し込みをされているが、同様のイメージと考えていただけるとよい。

委員長：センターでの発達検査の位置づけの説明があった。旭川荘南愛媛病院の発達検査についての現在の状況はどうか。

委員：外来の方で検査をするにあたって心理士が3人体制で実施しているが、事情により現在2人体制となっている。

新規ケースと、継続にかかわらず希望の連絡をいただいた場合や、県から委託されている療育支援事業にて必要がある場合に実施。しかし、予約は2ヶ月先で対応しており地域ニーズに十分に応えられていない状況。センターで実施できるようになれば、要望が多数出てくるのではないかと。

委員長：将来的にいろいろなところで検査ができれば必要な方たちの恩恵にはなるかと思うが、なんでもかんでも発達検査という状況になっては困る。
発達検査の基準について思われることはないか。

委員：医療に必要な場合は医者が判断し実施につなぐ形になっていくが、保護者やそのお子さんが所属する園や学校等での困り感が非常に大事になるのではないかと考えている。

委員：発達検査を実施しての印象として、発達特性を知る目的意外に、前回検査から1年たったため様子をみてみよう、テストのような感覚で学校の先生から勧められて希望される場合がある。このような場合は、よほど必要性がないのであれば、本人ご家族の負担もあることから、2年以上はなるべく空ける方がよいと伝えている。

委員長：南予に限らず全国的にも、発達検査の実施の基準をどうするか解釈や判断がバラバラになっている時に、検査数が増えている状況なのであろうと思われる。心理士の数などの地域実情による違いも出てくると思うが、発達検査に関する問題は小児科医としてもずっと抱えてきている問題であるため、共有させていただいた。

委員長：先ほど「発達支援センターの運営」について説明をいただいたが、これまでこの会にて議論を重ね、積み上げてきた結果まとまった形。成果として大変評価できる。体制作りの協議の場は「発達支援体制検討委員会」に移し、今後も検討を続けるとのこと。我々が積み重ねてきたものを次の委員に受け継いでいっていただかなければならない。その視点でご意見はないか。

各委員：特になし。

4 その他

委員長：これまで積み上げてきたものを次につなげることを、それぞれ一言ずついただきたい。

委員：当事者が一番大事なのだが、当事者が直接声を上げにくいこともあろう。代弁も含め、今後も代表的な現場の声を積み上げ検討していただくとありがたい。

委員：センターでの発達検査の目的について。医療がとても逼迫しているという状況の中では必ずしも医療につながることを目的とするというわけではなく、お子さんの特性を理解し、地域の中での過ごしやすい環境を整えていくための実施ができることは心強い。発達検査の目的がしっかり定着していく中で、保護者の方のご意見などを伺いながら地域でやっていくところを少しずつ、ぜひ検討していただけたらと思う。

委員：成人期の支援として、一般就労されて悩んでいる方たちも大勢いる。当事者はもちろん、受け皿となる企業側の悩みなども相談できる体制も必要ではないか。
検討委員会としても「地域で暮らす」という視点の中で、構成員や検討の場を考えていっていただきたい。

委員：初めての参加だが、いろいろな立場の方の話を聞かせていただけたのがとても良か

った。今後も新たな構成員の方たちと作り上げていくのであろう。

委員：早期発見早期対応というところで、この部分を協議する場がなかった課題について、今後は検討の機会が予定されていること大変ありがたいと思う。

委員：親は本人の代弁者。子どもの育ちを支える濃厚なサポートや親の羽の下にいる時期を過ぎ、発達障がいの方々が18歳以降の長い成人期を過ごしていく中で、発達支援センターが相談できる場所であってほしい。就労に関する支援者はたくさんいるが、就労していても生活や暮らしの困りごとにより就労が続かない、あるいは人生そのものを左右することも非常に多い。センターや次の検討委員会でもその視点をもって、今後も成人期の支援や支援体制を検討していただくことを期待、希望する。

委員：実際に運用管理してみるといろいろな問題や課題が出てくると思う。部会や関係者の声を拾いながら全体会で話し合い、様々な人を巻き込み課題解決、よりよい成長に向けて引き続き検討していただければと思う。

委員：学校現場に非常に支援が必要な子どもたちが増えているという実態に対し、気づいて適切な支援につないでいくということが一番大切だと思っている。そのために各学校の教職員のスキルを上げていくことが必要だろう。職員同士がお互いを顔を見える関係をしっかり築き、適切な対応、支援ができるように保健福祉部やあけぼの園等関係機関としっかり連携しながらやっていきたい。

副委員長：長い期間にわたり、皆さま方からいろいろなご意見と現場の声を聞かせていただいたこと、お礼を申し上げたい。ようやくスタートとなるが、箱物ができたからそれでいいではなく、これから市としてどのように運営し、生きづらさや困りごとへどう対応していけるかということがより重要になってくると思う。

来年度以降も引き続き忌憚のない意見を寄せていただき、新たにできる発達支援センターがより皆さま方の望んでいたものになるよう、進めたいと思う。

委員長：「宇和島市はぐくみサポートステーション」という名前は、事務局の熱い思いが凝集した名前である。会を重ね様々な意見も伺い、小さな頃から成人期まで育てていこうという幅広い意味合いで名付けた皆様の思いが集まった施設。

はぐくみサポートステーションには、あけぼの園、発達支援センター、わかたけが一カ所に集まり関係を作りやすい施設になっている。それぞれの委員の方々の思いを顔の見える関係の中でぶつけていただき、より良いものにさらに発展していただけたらありがたい。今後ぜひ繋げていただきたいと思う。

5 閉会

閉会挨拶 横山課長